



第11回 日本ジオパーク全国大会 島根半島・宍道湖中海大会 〔プログラム〕



今、なぜジオパーク？ 国引きの地から持続可能な地域づくりを考える

多古の石柱(松江市)

菟の長浜(出雲市)

出雲国風土記の自然と歴史に出会う大地

GEO PARK

2021
10/3(日)～5(火) [開催地] 松江市・出雲市

第11回 日本ジオパーク全国大会 島根半島・宍道湖中海大会

目次

ご挨拶	2
開催概要	3
島根半島・宍道湖中海ジオパークの紹介	5
プログラム	6
オンラインジオツアー	9
市民公開講座	10
講演	10
市町村長セッション	11
口頭発表を中心とする分科会	12
オンラインインタープリテーション講座【有料】	17
パネルディスカッション	17
ポスターセッションデータ、ポスターセッションコアタイム発表動画、展示ブースデータ	17
日本ジオパークネットワーク正会員及び準会員地域の特産品	18
島根半島・宍道湖中海ジオパーク認定ジオブランド商品	19
日本ジオパークネットワーク ブロック別パビリオン	20
ビッグハート出雲 会場案内	21
ジオパークとは	22
ユネスコ世界ジオパークの概念	22

ご挨拶



第11回日本ジオパーク全国大会 島根半島・宍道湖中海大会実行委員会
実行委員長 上定 昭仁(島根県松江市長)

第11回日本ジオパーク全国大会島根半島・宍道湖中海大会にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。
 今大会につきましては、本来昨年10月に開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の拡大により1年延期し、本年10月3日から5日に開催することといたしました。いまだ感染拡大に収束の兆しが見えないところ、くにびきメッセのプログラムについてはオンラインでの開催となりますが、全国からジオパーク関係者の皆様へ多数ご参加いただけることを大変嬉しく存じます。
 さて、今大会では、「今、なぜジオパーク?」をテーマに、ご参加いただく皆様とともにユネスコ世界ジオパークのガイドラインを再認識したうえで、ジオパーク活動に取り組む意義を改めて確認し、今後10年間の具体的な取り組みについて議論することとしております。全国大会では初めてのオンライン開催となりますが、参加者同士の活発な意見交換がなされ、今大会の成果を各地域で生かしていただくとともに、ジオパークのネットワークがさらに強化されることを期待しております。
 島根半島・宍道湖中海ジオパークは、古代にアジア大陸から切り離され、度重なる地殻変動によって創り上げられた宍道湖・中海と雄大な日本海に抱かれた大地に、出雲国風土記に残る「古代出雲文化」が栄えた地であり、その名残をとどめる神社・仏閣などの歴史や伝統文化が、現代の住民の暮らしにも溶け込み息づいています。
 今回は、全国からジオパーク関係者の皆様をお迎えすることは叶いませんが、新型コロナウイルス感染症が収束した折には、ぜひこの地にお越しいただきまして、美保関や日御碕などのジオサイト、国宝である出雲大社本殿や松江城天守、豊かな「食」などをご堪能いただきたいと思います。
 結びになりますが、今大会の開催にあたり、日本ジオパークネットワークの皆様、地元関係者の皆様に、多大なご協力とご支援をいただきましたことに、謹んでお礼申し上げます。
 今大会が、皆様にとって意義深いものとなり、今後のジオパーク活動の道標になりますことを心より祈念しております。



日本ジオパークネットワーク
理事長 米田 徹(新潟県糸魚川市長)

社会が直面する重要課題、中でも気候変動に起因する自然災害が多発する我が国において、ジオパーク活動の果たすべき役割は益々大きくなっていることから、私たち日本ジオパークネットワークは、活動に関わる人のネットワークを最大限に活用し、持続可能な地域社会の実現に積極的に貢献する使命があります。
 このために、全国のジオパーク関係者が一堂に会し交流を行うことは大変重要なことであり、ジオパーク活動の更なる発展や各地域の課題解決にもつながる大変有意義な機会になるものと大きな期待を寄せているところです。
 大会に参加される皆様には、ぜひ、日頃の活動で感じられている様々な思いなど忌憚なくご発言いただき、コロナ禍での大会開催であっても、それぞれの知見を積極的に発信することで、ジオパークファンを増やす良い機会となるように願っております。
 本大会が有意義で笑いの多いものとなるよう、参加者各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。



日本ジオパーク委員会
委員長 中田 節也

1年間の延期を経て、満を持して開催できる第11回日本ジオパーク全国大会島根半島・宍道湖中海大会に、日本ジオパーク委員会を代表し関係者の皆様へ心よりお礼を申し上げます。
 私達は、現在、人類が過去に幾度となく遭遇した感染症の大流行を体験し、人間、社会、政治、そして、ジオパークの有り様について多くのことを考え、この感染症に怯まず常に前進することを日々模索しています。世界中がオンラインで連携できる新しいコミュニケーションツールを見出す一方、オリパラなどのイベント開催の意味を問い直し、性の不公平など我が国に残る課題も浮き彫りになりました。
 コロナ禍であっても自然災害は容赦なく私たちに襲い、気候温暖化の波は歩みを止めることがありません。このような複合災害時にあってこそ、ジオパークを活用した新しい地域振興の取り組みが不可欠です。
 新型コロナウイルス感染を正しく恐れ、地域が支え合い、希望をもって前進できるよう、この大会参加者のみなさまがアイデアを交換し理解を深めあう機会になりますよう願っています。



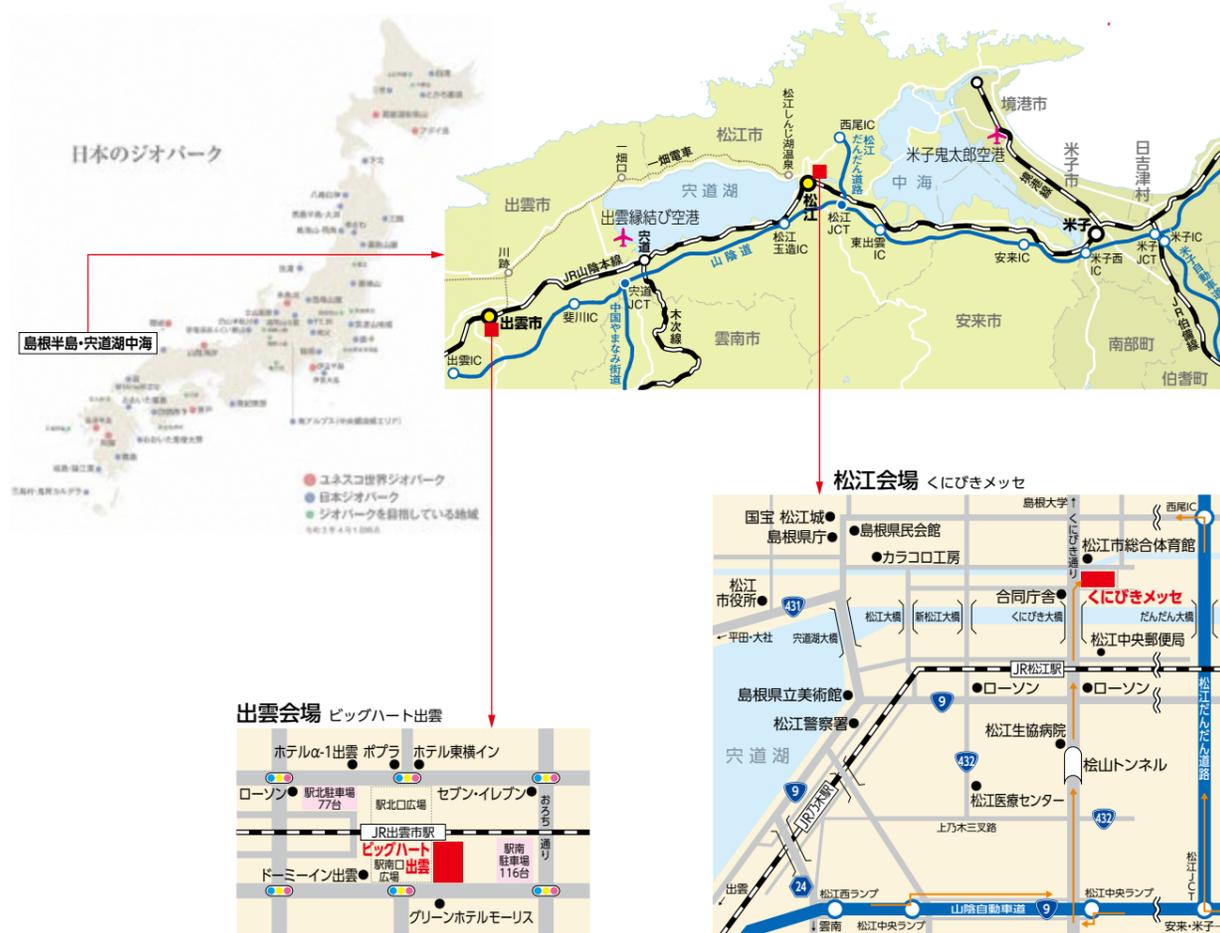
島根県知事 丸山 達也

本日、第11回日本ジオパーク全国大会島根半島・宍道湖中海大会が開催されますことを心よりお慶び申し上げます。
 さて、島根には「島根半島・宍道湖中海ジオパーク」と「隠岐ユネスコ世界ジオパーク」の2つのジオパークがあり、ここでは、加賀の瀬戸や日御碕の柱状節理、隠岐諸島の黒曜石や赤壁など、数多くの地質遺産を基盤とする「大地」と、その上に営まれる文化・歴史、そして希少な動植物などの自然に触れることができます。これらの価値ある地質遺産を保全し、独自の文化、豊かな自然を守り、受け継いでいくためには、私たち一人一人がジオパークについて深く理解し、私たちの暮らし地域に誇りを持つことが大切です。
 この大会を契機に、ジオパークの取組を多くの方々に知っていただくとともに、関係の皆様が交流を深め、意見を交わすことによってジオパーク活動がさらに活性化し、ブランドとなって各地域の一層の振興につながることを期待しています。
 結びに、本大会の成功と、お集まりの皆様方の益々のご活躍を祈念しまして、お祝いのご挨拶といたします。

開催概要



- 大会名称** 第11回日本ジオパーク全国大会島根半島・宍道湖中海大会
- 目的** 第11回日本ジオパーク全国大会島根半島・宍道湖中海大会は、ジオパーク事業の取り組みを多くの方々に知っていただくとともに、各ジオパークの情報交換や意見交換などを行い、ジオパークの一層の発展・向上につなげることを目的として開催します。
- テーマ** **今、なぜジオパーク？**
- サブテーマ** ～国引きの地から持続可能な地域づくりを考える～
- 会期** 令和3年10月3日(日)～5日(火)
- 会場** くにびきメッセ (3～5日、松江市・オンライン配信会場)
ビッグハート出雲 (3日、出雲市)



主催

第11回日本ジオパーク全国大会島根半島・宍道湖中海大会実行委員会
一般財団法人自治総合センター

共催

特定非営利活動法人 日本ジオパークネットワーク
日本ジオパーク委員会
日本ジオパークネットワーク中四国近畿ブロック

山陰海岸ジオパーク推進協議会	Mine秋吉台ジオパーク推進協議会
室戸ジオパーク推進協議会	萩ジオパーク推進協議会
一般社団法人 隠岐ユネスコ世界ジオパーク推進協議会	土佐清水ジオパーク推進協議会
四国西予ジオパーク推進協議会	三好ジオパーク構想推進協議会
南紀熊野ジオパーク推進協議会	

協賛

法人等 (敬称略、五十音順)

アトネスいずも(出雲ターミナル株式会社)	株式会社 グラス	斐川町商工会
出雲ケーブルビジョン株式会社	株式会社 山陰放送松江支社	まつえ北商工会
出雲商工会	株式会社 田部	松江工業高等専門学校
一畑電気鉄道株式会社	株式会社 日新	松江交通局
一般財団法人 宍道湖西岸森と自然財団 来待ストーン	株式会社 日本旅行Tis松江支店	松江土建株式会社
一般社団法人 出雲観光協会	株式会社 松江情報センター	松江ロータリークラブ
一般社団法人 加賀瀬戸遊覧船	株式会社 メディアスコープ	有限会社 アエラ地域文化デザイン室
一般社団法人 中海・宍道湖・大山圏域観光局	公益財団法人 ホシザキグリーン財団	有限会社 ふたば工芸社
一般社団法人 松江観光協会	荒神谷博物館	有限会社 Plus value
一般社団法人 松江観光協会 美保関町支部	小林病院 小林祥泰	有限会社 ヤマダ看板
株式会社 NCPサプライ 松江支店	島根県農業協同組合	有限会社 吉田工美
株式会社 エムシー・スクエア	田部グループ	
株式会社 オリジナル	中国電力株式会社 島根支社	

個人 (敬称略、五十音順)

阿部 國廣	小川 英二	北原 郁子	錦織 弘之	横原 政治	和田 昇司
荒木 邦明	門脇 和也	桑原 弘道	服部 昌幸	松本 倫枝	渡部美智子
井川 浩介	金折 徹也	河野 美知	樋野 榮一	沼古 裕士	
入月 俊明	木内 吾平	高尾 学	船越さちよ	森脇 博之	

協力

出雲国ジオガイドの会

(敬称略、五十音順)

出雲市	山陰ケーブルビジョン株式会社	中海・宍道湖・大山圏域市長会
出雲市教育委員会	山陰万葉を歩く会、風土記を訪ねる会	西日本旅客鉄道株式会社米子支社
出雲市コミュニティセンター長会	島根県	日本エコビレッジ研究会
出雲商工会議所	島根県地学会	日本海テレビ
出雲大社	島根県立古代出雲歴史博物館	BSS山陰放送
一畑薬師	島根県立三瓶自然館サヒメル	平田商工会議所
一般社団法人 中海・宍道湖・大山圏域観光局	島根県立宍道湖自然館ゴビウス	松江市
NHK松江放送局	島根県立八雲立つ風土記の丘	松江市教育委員会
加賀まるごと博物館	島根半島四十二浦巡り再発見研究会	松江市公民館長会
株式会社 山陰中央新報社	宍道湖魚類研究会	松江商工会議所
株式会社 島根日日新聞	神社ガールズ研究会	松江ロータリークラブ
小泉八雲記念館(島根県松江市)	総務省	八束の遺産を守る会
国土交通省中国地方整備局出雲河川事務所	中国四国地方環境事務所	
国立大学法人 島根大学	TSKさんいん中央テレビ	

島根半島・宍道湖中海ジオパーク

島根半島・宍道湖中海ジオパークは、島根県松江市と出雲市の2つの市域を合わせた範囲に位置し、その中心にラムサール条約登録湿地である宍道湖・中海を抱える風光明媚な地域です。

人口は、松江市約204,000人、出雲市約173,000人、合わせて377,000人であり、面積は、宍道湖と中海の面積を含めて1,197.35平方キロメートルです。また、松江市と出雲市には、それぞれ国宝松江城天守と国宝出雲大社本殿という主要な観光地があり、両市合わせて約2,000万人の年間観光入込客数があります。

本ジオパークは、「出雲国風土記の自然と歴史に出会う大地」を全体テーマに、地球環境の大切さを学び、守り育てながら未来に引き継いでいくために、地質・地形とともに、この地に根付いている歴史文化も交えた視点でアプローチし、まずはジオパークの価値を身近に感じてもらうこと、そして、持続的かつ地域を挙げた活動を展開していくことを目的として、推進行動計画に基づいて活動しています。

本ジオパークエリアは、その地形的な特徴により、大山隠岐国立公園の指定を受けたリアス式海岸や宍道湖北山山系がある「島根半島エリア」、斐伊川水系に属する連結潟湖の中海と宍道湖がある「出雲平野・宍道湖・中海低地帯エリア」、立久恵峡県立自然公園がある「南部丘陵山地エリア」の大きく3つのエリアから構成されています。

また、ジオサイトとして67箇所を指定しており、主なジオサイトは以下のとおりです。



島根半島エリア ▶ 大規模な地殻変動を今に感じる大地	
地蔵崎 (松江市)	半島の東端にあり、「大陸分裂の時代」の地層が露出しています。世界灯台100選の美保関灯台があります。
加賀の潜戸 (松江市)	日本海に突き出た潜戸鼻に海食作用でうがたれた大きな海食洞門と海食洞があり、神様の誕生神話があります。
白御碕 (出雲市)	半島の西端にあり、約1,600万年前に噴火した流紋岩の柱状節理が広がり、世界灯台100選の出雲日御碕灯台があります。

出雲平野・宍道湖・中海低地帯エリア ▶ 古代出雲文化の基盤となった大地	
嫁ヶ島 (松江市)	約1,000万～1,200万年前(松江層の時代)に活動したアルカリ玄武岩でできています。夕日スポットとして人気です。
蘭の長浜 (出雲市)	蘭の長浜は「国引き神話」の神様が、島根半島の土地を引き寄せた国引きの綱の跡と伝わる景色です。
斐伊川 (出雲市)	出雲と斐川の平野を生み出した河川で、ヤマタノオロチ神話があり、「たたら製鉄」を背景とした天井川としても有名です。

南部丘陵山地エリア ▶ 古代出雲の中心であった大地	
来待石の石切場跡 (松江市)	来待石は、約1,400万年前の浅い海で堆積した安山岩の岩片を多く含む凝灰質砂岩で、犬牙や石灯籠の石材になります。
立久恵峡 (出雲市)	安山岩の角礫集積地帯で、高さ100～200mの崖が続き、亀が薬師仏を背負って浮上した伝説のある信仰の地です。

プログラム

10/2

オンライン			
時間	プログラム	内容	オンラインでの参加方法
14:00～15:30	オンラインジオツアー (詳細は9ページ)	出雲国ジオガイドの会に所属するガイドが、リレー方式により当ジオパークの魅力を伝えるオンラインジオツアーを生配信する。	YouTube Live

10/3

オンライン (JGN等会議)			
時間	プログラム	内容	オンラインでの参加方法
10:00～12:00	JGC事前相談会	ユネスコ世界ジオパーク国内推薦申請希望地域 日本ジオパーク申請希望地域	対話式 Zoom
13:00～15:00	JGN運営会議		対話式 Zoom

10/3

出雲会場 (ビッグハート出雲)		※来場者は島根県民に限定			
時間	プログラム (会議室)	内容	大会参加登録 無しも参加できる プログラム	参加費	オンラインでの参加方法
13:00～15:45	市民公開講座 (講演、パネルディスカッション) 会場/白のホール (詳細は10ページ)	①主催者あいさつ 第11回日本ジオパーク全国大会 島根半島・宍道湖中海大会実行委員会 副実行委員長 飯塚 俊之(島根県出雲市長) ②ジオパーク基礎講座 入月 俊明(島根大学 学術研究院 環境システム科学系 教授) ③講演「世界の巨石 ～人と関わる大地・文化・観光・ジオサイトの魅力」 講師:須田 郡司 写真家、巨石ハンター ④パネルディスカッション「出雲地域の大地と文化の関わり」 ファシリテーター:河野 美知 神社ガールズ研究会会長(認定ジオガイド) パネリスト:平野 芳英 荒神谷博物館 元副館長 服部 昌幸 出雲市佐香コミュニティセンター長(認定ジオガイド) 入月 俊明 島根大学 学術研究院 環境システム科学系教授	○	—	視聴のみ YouTube Live
10:00～13:00	オンライン交流コーナー	全国のジオパークと出雲会場をZoomで繋ぎ、オンライン上で語り合える場を設ける。	○	—	対話式 Zoom
10:00～17:00	JGN ブロック別パビリオン 会場/黒のスタジオ、茶のスタジオ、 アートギャラリー、レセプションスペース、 文化サロン	ジオパークのおもしろさや、大地とグルメ、 歴史、文化などのつながりを情報発信する ブース出展等。	○	—	ホームページ閲覧 希望者の ポスターや動画を HPに掲載
10:00～17:00	ジオパーク展示 会場/通路等	①ジオパークの基本的紹介 ②ジオパーク関連映像上映	○	—	
10:00～17:00	物産展 会場/通路等	①全国のジオパーク特産品販売 ②島根半島・宍道湖中海ジオパーク認定ジオブランド商品販売	○	—	特産品情報 をHP掲載
10:00～17:00	スタンプラリー 会場/各催し会場	各催し会場でスタンプを集め、抽選で記念品贈呈。	○	—	なし

10/3日

オンライン					
時間	プログラム	内容	大会参加登録 無しでも参加できる プログラム	参加費	オンラインでの 参加方法
15:00 ～17:00	市町村長 セッション (詳細は11ページ)	コロナ時代のジオパーク活動による地方創生と持続可能な社会の構築 ファシリテーター：島根半島・宍道湖中海(国引き)ジオパーク推進協議会 会長 上定 昭仁(島根県松江市長) コメンテーター：東北公益文科大学公益学部 新名阿津子 准教授(JGC委員) パネリスト：とかち鹿追ジオパーク推進協議会 会長 喜井 知己(北海道鹿追町長) 筑波山地域ジオパーク推進協議会 会長 五十嵐立青(茨城県つくば市長) 苗場山麓ジオパーク振興協議会 会長 桑原 悠(新潟県津南町長) 三島村ジオパーク推進連絡協議会 会長 大山 辰夫(鹿児島県三島村長) 島根半島・宍道湖中海(国引き)ジオパーク推進協議会 副会長 飯塚 俊之(島根県出雲市長) 参加者：JGN正会員及び準会員地域の市町村長 担当：島根半島・宍道湖中海(国引き)ジオパーク推進協議会	—	○	対話式 または 視聴のみ Zoom



10/4日

オンライン					
時間	プログラム	内容	大会参加登録 無しでも参加できる プログラム	参加費	オンラインでの 参加方法
9:00 ～10:00	開会式	1. 主催者・共催者あいさつ ①第11回日本ジオパーク全国大会島根半島・宍道湖中海大会実行委員会 実行委員長 上定 昭仁(島根県松江市長) ②日本ジオパークネットワーク理事長 米田 徹(新潟県糸魚川市長) ③日本ジオパーク委員会 委員長 中田 節也 2. 来賓紹介・あいさつ ①島根県知事 丸山 達也 ②ジオパークによる地域活性化推進議員連盟 会長 石破 茂 ③日本ジオパーク学術支援連合 代表 天野 一男 3. 新規認定証授与 4. JGN表彰	○	—	視聴のみ YouTube Live

10:05 ～10:45	特別講演 (詳細は10ページ)	ラフカディオ・ハーン 講演：「小泉 八雲、「ジオ」へのまなざし」 講師：小泉 凡 小泉八雲記念館館長(島根県立大学短期大学部名誉教授)	○	—	視聴のみ YouTube Live
10:55 ～11:35	基調講演 (詳細は11ページ)	講演：「過去から将来への沿岸環境と人新世」 講師：齋藤 文紀 国立大学法人 島根大学 研究・学術情報機構エスチュアリー研究センター センター長(JGC委員)	—	○	視聴のみ YouTube Live
11:35 ～12:05	基調提起 (詳細は11ページ)	講師：米田 徹 日本ジオパークネットワーク理事長 大会テーマ「今、なぜジオパーク?」に対する答えを参加者各自が導き出せるように、これまでの10年のジオパーク活動への想いや今後の活動の展望などについてお話しいただく。	—	○	視聴のみ YouTube Live
12:05 ～13:00	昼 休 憩 (地元のおもてなし動画を上映)				
13:00 ～13:50	ポスターセッション コアタイム	ジオパークに関するさまざまな活動事例、研究成果、問題点やそれに対する取り組みなど、ポスターセッションのテーマに沿って発表する。 [ポスターセッションテーマ] ①活動事例(保全・保護) ②活動事例(担い手育成) ③活動事例(社会貢献) ④活動事例(ネットワークの意義・活用) ⑤活動事例(地域振興) ⑥最近の学術研究成果(ジオ、エコ、ヒト、融合研究) ⑦ジオパークにある神話・伝説を科学の目で見て語ってみよう	○	—	対話式 Zoom 希望者の動画をHPIに掲出
13:00 ～17:30	オンライン インタープリテーション講座【有料】 (詳細は17ページ)	体験(アクティビティ)を通してメッセージを伝える技術「インタープリテーション」に触れ、楽しく安全に、お客様が主役となる場作りを体験・実習する。	—	別途必要	対話式 Zoom
14:00 ～15:00	グループトーク	参加者が「今、なぜジオパーク?」なのか、これから10年の考え方や手法などについて参加者同士が議論する。 [グループトークのテーマ] ①振り返り ・ユネスコ世界ジオパークガイドラインに即した活動に取り組んでいるか。 ・自分の地域のジオパークの課題や強み、弱み。 ②今後の活動について ・「今、なぜジオパーク?」なのか。 ・これから10年の取り組みとしての考え方や手法について。	—	○	対話式 Zoom
15:00 ～17:30	口頭発表を 中心とする分科会 (詳細は12,13ページ)	①保全・保護 【ジオパークで考える海ごみ問題】 ②担い手育成(学校教育) 【ジオパークで目指したい教育ってなに?】 ③社会貢献(防災) 【ジオパークだからこそできる防災・減災活動】 ④ネットワークの意義・活用(地域内のネットワークづくり) 【地域内のパートナーシップで何ができるのか】	—	○	対話式 Zoom

10/5

オンライン

時間	プログラム	内容	大会参加登録 無しでも参加できる プログラム	参加 費	オンラインでの 参加方法
9:00 ～12:00	オンライン インタープレーション講座【有料】 (詳細は17ページ)	10月4日から引き続き開催	—	別途 必要	対話式 Zoom
9:30 ～12:00	□頭発表を 中心とする分科会 (詳細は14～16ページ)	①保全・保護 【ジオパークでの湿地の価値の評価と保全の実際】	—	○	対話式 Zoom
9:00 ～12:00		②担い手育成(地域住民) 【地域住民との協働】			
9:30 ～12:00		③社会貢献(ユニバーサルデザイン) 【大自然の驚異に立ち向かう人類～多様性とネットワークを活かしたリスク回避～】			
9:00 ～12:00		④ネットワークの意義・活用(ジオパーク同士のネットワークづくり) 【ネットワークによる多様な連携】			
9:00 ～12:00		⑤地域振興(ツーリズム) 【ジオツーリズムと地域振興】			
12:00 ～13:00	昼 休 憩 (地元のおもてなし動画を上映)				
13:00 ～14:30	パネル ディスカッション (詳細は17ページ)	9分科会のファシリテーター等が参加し、分科会報告と、これから10年のジオパーク活動について議論を深め、「今、なぜジオパーク?」に対する答えを導き出す。	○	—	対話式 Zoom
14:30 ～15:00	閉会式	1. 大会宣言 第11回日本ジオパーク全国大会島根半島・宍道湖中海大会実行委員会 実行委員長 上定 昭仁(島根県松江市長) 2. 次回開催地あいさつ 白山手取川ジオパーク推進協議会 会長 山田 憲昭(石川県白山市長) 3. 閉会あいさつ 第11回日本ジオパーク全国大会島根半島・宍道湖中海大会実行委員会 副実行委員長 飯塚 俊之(島根県出雲市長)	○	—	視聴のみ YouTube Live

オンラインジオツアー

10月2日(土) 14:00～15:30

企画・運営 島根半島・宍道湖中海(国引き)ジオパーク推進協議会

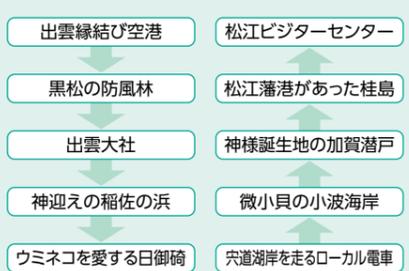
島根半島から満喫ジオツアー!

本来であれば、プレジオツアー4コース、ポストジオツアー7コースを進行する予定であり、多くのジオパーク関係者の参加申込みがあったが、オンライン開催への変更に伴い、ジオツアーは取り止めとした。

その代わりに、当ジオパークを紹介するオンラインジオツアーを企画し、生配信で実施することとした。

出雲国ジオガイドの会に所属するガイドが、リレー方式により当ジオパークの魅力伝えるとともに、クイズを盛り込むなど、分かりやすくジオサイトを案内する。

コース案内



市民公開講座

市民公開講座

10月3日(日) 13:30～14:30

会場 ● ビッグハート出雲 白のホール



講演》世界の巨石 ～人と関わる大地・文化・観光・ジオサイトの魅力

講師 ● 須田 郡司 写真家、巨石ハンター

道端に落ちている「石ころ」にも何億年もの歴史が秘められている。地下のマグマ溜まりや熱帯のサンゴ礁、そして深海の底などで生まれた石たちは途方もない時間の果てに地表へと顔を出し、やがて風化浸食を受けて地球の繰り返し営みの中に還ってゆく。これら目にできる石たちは、そんな輪廻(りんね)の中でほんの一瞬だけ太陽を見ることを許された特別な存在である。石たちとの出会いは、まさに奇跡である。

講師は、この四半世紀余り日本と世界の巨石を巡る撮影の旅を続けている。街から遠く離れた秘境にひっそりと佇む奇岩、圧倒的なスケールの巨石、そして、古い伝承を持つ怪石やアニミズム(自然信仰)と結びついた聖なる石など。地球の記憶を訪ねるこの旅の中で、石たちの豊かな表情と多様な石の物語に触れて、大地と人との絆を体感してきた。巨石とは、ある意味「大地と人の絆を紡ぐもの」と言ってもいいのではないかと。

自然の造形物である石は、様々な自然環境の中で存在する。また、日本人ほど身近に石と親しみ、石に名前を付け、石にあれこれの歴史や思いを付度し、種々楽しむ民族は少ないと思う。動物など様々な姿にたとえられたもの、地域に根ざした神話や信仰があるもの、観光スポットやジオサイトとして人気があるものなど、様々な側面を我々に見せてくれる。

本講演は、これまで講師が訪ね歩いた世界と日本の中から印象的な巨石を選定し、その岩質をはじめ人と関わる大地(自然)・文化(神話・信仰)・観光・ジオサイトなどの魅力を紹介する。また、巨石の写真による巨石巡りの疑似体験を通じ、ジオ多様性としての「地球の記憶」を楽しんでいただければ幸いです。

写真を見ていただいた方々には、いつの日か実際にそこを訪れ、生の巨石を体感していただければと願っている。

市民公開講座

10月3日(日) 14:45～15:45

会場 ● ビッグハート出雲 白のホール

パネルディスカッション》出雲地域の大地と文化の関わり

地元でジオパーク活動を推進している方々から、出雲地域の信仰や文化、地域の活動について話してもらうことで、出雲地域に根づく文化や歴史が大地と関わっていることを認識し、地球環境の保全に対する意識を高めるようにする。

ファシリテーター	河野 美知	神社ガールズ研究会会長(認定ジオガイド)
パネリスト	平野 芳英	荒神谷博物館 元副館長
	服部 昌幸	出雲市佐香コミュニティセンター長(認定ジオガイド)
	入月 俊明	島根大学 学術研究院 環境システム科学系教授

講演

特別講演

10月4日(月) 10:05～10:45



ラフカディオ・ハーン
講演》小泉八雲、「ジオ」へのまなざし

講師 ● 小泉 凡 小泉八雲記念館館長
島根県立大学短期大学部名誉教授

日本文化のインタープリターとして知られる、小泉八雲(ラフカディオ・ハーン/1850-1904)は、1890年8月から1年3か月間、松江に滞在した。山陰の自然に魅了され、宍道湖や島根半島をジオ的まなざしで観察し、火山・地震・種々の岩石に言及しつつ、詩人的感性で描写した。とくに「子どもの魂の岩屋」「日御碕」「伯耆から隠岐へ」(いずれも『知られぬ日本の面影』)などにジオ的描写が豊かにみられる。

また、勤務先の島根県尋常中学校で行われていた地質学の連続授業では、宍道湖や海岸地帯へのフィールドワークを行い、イギリスの生物学者・博物学者であるトマス・ヘンリー・ハクスリーの研究成果が生かされていることに驚嘆し、高く評価している。〔英語教師の日記から〕そして、八雲自身もハクスリーの著書11冊を愛蔵し、その中には地質学の書も含まれていた。

後年、神戸時代に書いた新聞記事「地震と国民性」では、自然災害が多発し、海岸線も河川の流れるような国土が、日本人に変化を受け入れる能力を付与した。西洋文明を短期間で受容・昇華することができたのもその成果だと評価する。この風土と文化の相関についての仮説も、松江時代のジオ的観察が土台となっていることは言うまでもない。

熊本五高での講演では、「自然との共生とシンプルライフの維持が将来の日本にとって最重要」であることを説いた。オープンマインドで異文化を受け入れ、人種差別や人間中心主義を嫌悪した八雲の精神は、SDGsの思想とも響き合うものが感じられる。



基調講演 10月4日(月) 10:55~11:35



講演》過去から将来への沿岸環境と人新世

講師 ● 齋藤 文紀 国立大学法人島根大学 研究・学術情報機構エスチュアリー研究センター センター長(JGC委員)

人類が日本列島に住むようになって以降、海水準は100m以上も変動してきた。現在よりも2度ほど温暖であった縄文前期から海水準はほぼ安定しており、沿岸低地や沿岸域の多くの地形がこの期間に形成されている。将来の海水準の変動では、最新のIPCCの報告によると2300年に現在よりも1mから5m上昇することが推定されている。また海水準の上昇以外の人間活動によっても沿岸環境は大きな影響を受けており、沿岸域は最も脆弱な地域のひとつとされている。一方、人間活動は地球環境を大きく改変しつつあり、新たな地質時代の人新世が国際地質科学連合において現在検討されている。持続可能な社会を構築するためにも、これらの最新の知見や沿岸環境が抱える問題などについて報告する。

基調提起 10月4日(月) 11:35~12:05



講師 ● 米田 徹 日本ジオパークネットワーク理事長

大会テーマ「今、なぜジオパーク?」に対する答えを参加者各自が導き出せるように、これまでの10年のジオパーク活動への想いや今後の活動の展望などについてお話いただく。

市町村長セッション

分科会 10月3日(日) 15:00~17:00 企画・運営 島根半島・宍道湖中海(国引き)ジオパーク推進協議会

コロナ時代のジオパーク活動による地方創生と持続可能な社会の構築

コロナ禍において、大都市圏への人口集中の是正と、人口や産業の地方分散がますます重要となっており、「地方創生」に向けた絶好の機会となっている。

「地方創生」を推進するうえで、感染症や自然災害に強い「持続可能な地域社会の構築」やSDGsの理念をもって取り組むことは欠かすことができない。このような状況の中、2つのテーマについて議論する。

テーマ1 市町村長が、ジオパークと行政のトップを兼ねている地域は多く、ジオパーク活動と行政の施策との連携や、ジオパーク運営組織と地域住民または行政内部との連携など各ジオパークの状況について議論する。

テーマ2 コロナ禍における地方創生や持続可能な地域社会の構築の実現に向けて、ジオパーク運営組織やガイドなどの関係者によるジオパークのネットワーク活動の強化について、トップの視点から議論する。

ファシリテーター	島根半島・宍道湖中海(国引き)ジオパーク推進協議会 会長 上定 昭仁(島根県松江市長)
コメンテーター	新名 阿津子(東北公益文科大学公益学部准教授、JGC委員)
パネリスト	とちぎ鹿追ジオパーク推進協議会 会長 喜井 知己(北海道鹿追町長) 筑波山地域ジオパーク推進協議会 会長 五十嵐 立青(茨城県つくば市長) 苗場山麓ジオパーク振興協議会 会長 桑原 悠(新潟県津南町長) 三島村ジオパーク推進連絡協議会 会長 大山 辰夫(鹿児島県三島村長) 島根半島・宍道湖中海(国引き)ジオパーク推進協議会 副会長 飯塚 俊之(島根県出雲市長)
参加者	JGN正会員及び準会員地域の市町村長

口頭発表を中心とする分科会

分科会 1-1 10月4日(月) 15:00~17:30 企画・運営 山陰海岸ジオパーク推進協議会

【保全・保護】ジオパークで考える海ごみ問題

海ごみ問題に取り組むジオパーク関係者に、現状の課題や解決への取り組み事例などを紹介してもらい、各関係者および参加者の意見交換や議論から今後の海ごみ問題への取り組みを共有し、ジオパークプログラムにおける保全活動について考える。

ファシリテーター	兵庫県立大学大学院 地域資源マネジメント研究科 川村 教一 教授、佐野 恭平 助教
基調提起	一般財団法人 JEAN 小島 あずさ 理事
口頭発表	①山陰海岸ジオパーク 丸田 智代子 ジオガイド 山陰海岸ジオパーク活動報告。海、浜を守る事は、地域を守る事 ②隠岐ユネスコ世界ジオパーク推進協議会 池永 遼介 地質研究員 海ごみ問題に対する隠岐ジオパークの取り組み紹介 ③伊豆半島ユネスコ世界ジオパーク 齊藤 武 ジオガイド 海ごみ問題に対する伊豆半島ジオパークの取り組み紹介 ④海と大地の自然館 松本 和彦 学芸員 どうしよう! 海ごみ問題 -中山間地の取組(八東川(はとうがわ)クリーンアップ大作戦)-
会場との意見交換	

分科会 1-2 10月4日(月) 15:00~17:30 企画・運営 室戸ジオパーク推進協議会

【担い手育成(学校教育)】ジオパークで目指したい教育ってなに?

ジオパークの教育は単に地形や地質を学ぶことではない。「いまなぜジオパーク教育」なのか。社会に求められている子供たちの教育に、ジオパークがどのように貢献できるのか、また現在移行が進んでいる新学習指導要領への対応など、学校側・先生側のニーズを的確に把握し、ジオパークならではの教育をどのようにうまく進めていくことができるのかを議論する。

ファシリテーター	室戸ジオパーク推進協議会事務局 中村 昭史 地理専門員 ※ 特別協議協力者/日本ジオパーク委員会 大野 希一 委員(島根半島ジオパーク推進協議会事務局次長)
基調提起	「新学習指導要領で目指される教育の方向性と学校教育への導入アプローチ」 芝浦工業大学工学部 谷田川 ルミ 教授 芝浦工業大学建築学部 栗島 英明 教授 求められている教育にジオパークはどのように貢献することができるのか。ジオパークを活用することで、何を目標することができるのか。
事例発表	①三好ジオパーク構想推進協議会 殿谷 梓 ジオパーク専門員 何のため、誰のためのジオパーク学習なのかを三好から考える ②室戸ジオパーク推進協議会事務局 小笠原 翼 国際交流専門員 地域内の持続可能な教育を維持するためにジオパークができること
班別協議・協議内容発表	
総評	日本ジオパーク委員会 大野 希一 委員

分科会
1-3

10月4日(月) 15:00~17:30

企画・運営 四国西予ジオパーク推進協議会

【社会貢献(防災)】ジオパークだからこそできる防災・減災活動

自然災害のリスク軽減に対して、ジオパークをどのように機能させれば良いのか、また機能させるためには何をしなければいけないのか考える。

ファシリテーター	東北学院大学 目代 邦康 准教授
趣旨説明	東北学院大学 目代 邦康 准教授
基調講演	ジオパークと防災・減災活動 東北大学災害科学国際研究所 定池 祐季 助教 概要：国内外の被災地における災害伝承・防災教育活動をコンテンツや担い手に注目して紹介しながらジオパークにもできること、ジオパークだからこそできることを考えていくための材料を提供する。
グループ討論	参加者を交えて、お題に対して班ごとに分かれて議論する。

分科会
1-4

10月4日(月) 15:00~17:30

企画・運営 隠岐ユネスコ世界ジオパーク推進協議会

【ネットワークの意義・活用(地域内のネットワークづくり)】 地域内のパートナーシップで何ができるのか

ジオパーク活動はトップダウンではなく、地域の組織、企業や住民と連携しながらボトムアップで取り組んでいく必要がある。本分科会では推進的な取り組みを行っている4地域の事例を発表し、それらを参考に参加者と意見交換しながら地域内のネットワークのあり方と重要性について考える。

ファシリテーター	隠岐ユネスコ世界ジオパーク推進協議会事務局 長田 樹 事務局員 隠岐ユネスコ世界ジオパーク推進協議会事務局 ヴォウォンセン・ヤゴダ 専門員
課題提起	ファシリテーターによる課題提起
口頭発表	口頭発表及び質疑応答 ※発表者順不同 ①三笠ジオパーク推進協議会 事務局 長 下村 圭 地域内連携による地域資源活用の取り組みについて ②栗駒山麓ジオパーク推進協議会 専門員 長谷川 唯 栗駒山麓ジオパーク特産商品「栗駒山麓のめぐみ」の取り組みを通じた地域振興について ③(一社)立山黒部ジオパーク協会 専門員 山瀬 裕子 市内散策「ブラとやま」NPO法人、大学との連携による町並みの魅力再発見 ④山陰海岸ジオパーク推進協議会 事務局員 浅田 英亮 地元の宿泊業者との連携した取り組みについて
意見交換及びまとめ	

分科会
2-1

10月5日(火) 9:30~12:00

企画・運営 JGN運営会議保全ワーキンググループ

【保全・保護】ジオパークでの湿地の価値の評価と保全の実際

湿地の多面的な価値の評価方法を共有し、ジオパークプログラムにおける湿地での保全活動、持続可能なツーリズム、教育活動とは何かについて考える。

ファシリテーター	筑波山地域ジオパーク推進協議会 富永 紘平 ジオパーク専門員 南紀熊野ジオパーク推進協議会 野口 和典 事務局員
問題提起	日本には、広大な湿地を持つ(持っていた)ジオパークがいくつもある(例えば、筑波山地域Gpの霞ヶ浦、男鹿半島・大潟Gpの八郎潟、島根半島・宍道湖中海Gpの宍道湖・中海)。これらでは大規模な地形改変等が行われている(いた)が、ジオパークとしてそうしたことについての評価はしておらず、またジオパークとしての保護・保全活動で顕著なものはほぼない。本分科会では、湿地の多面的な価値の評価方法を共有し、ジオパークプログラムにおける湿地における保全活動、持続可能なツーリズム、教育活動とは何かについて考える。(SDGs 15.5,15.9,15.a)
基調講演	広島大学大学院 人間社会科学部研究科 浅野 敏久 教授
事例発表	①中海自然再生協議会 國井 秀伸 会長(島根大学名誉教授) 宍道湖・中海干拓淡水化事業中止から自然再生の開始まで ②大潟村干拓博物館 船木 信一 館長 大潟村にハクガンが来る意味と意義 ③筑波山地域ジオパーク推進協議会 富永 紘平 ジオパーク専門員 筑波山地域ジオパークにおける霞ヶ浦の保全の現状 ④栗駒山麓ジオパーク推進協議会 田中 誠也 専門員 伊豆沼・内沼での実践からジオパークの保全を考える
会場との意見交換	

分科会
2-2

10月5日(火) 9:00~12:00

企画・運営 南紀熊野ジオパーク推進協議会

【担い手育成(地域住民)】地域住民との協働

どのようにステークホルダーとして地元企業を巻き込んでいくか、地元が潤うシステム作りを地域住民と一緒にどのように考えるかなどの議論を促し、持続可能な地域経済活動とは何かについて考える。

ファシリテーター	和歌山大学教育学部 此松 昌彦 教授 和歌山大学観光学部 出口 電也 教授 山陰海岸ジオパーク 今井 ひろこ Gpガイドコーディネーター
基調提起	和歌山大学観光学部 出口 電也 教授 地域住民のジオパーク活動への参加については、各地域において様々な方法で行われてきた。一方で、地元企業との製品やサービスのブランド化等は、さらなる取り組みができる余地がある。 本分科会では、どのようにステークホルダーとして地元企業を巻き込んでいくか、地元が潤うシステム作りを地域住民と一緒にどのように考えるかなどの議論を促し、持続可能な地域経済活動とは何かについて考える。(SDGs 8.9 11.a 12.b)
口頭発表	①NPO法人桜島ミュージアム 福島 大輔 理事長 ②森林インストラクター/巖波ジオガイド 横山 昌太郎
パネルディスカッション	コーディネーター 和歌山大学教育学部 此松 昌彦 教授 パネリスト 和歌山大学観光学部 出口 電也 教授 森林インストラクター/巖波ジオガイド 横山 昌太郎 南紀熊野ジオパークガイド 平松 美樹 ゲストハウス南紀くまのいえ管理人

分科会 2-3 10月5日(火) 9:30~12:00 企画・運営 JGN運営会議ユニバーサルデザイン(UD)ワーキンググループ

【社会貢献(ユニバーサルデザイン)】
大自然の驚異に立ち向かう人類 ~多様性とネットワークを活かしたリスク回避~

多様性を理解し、受け入れることで、様々なリスクを克服できる。特に、ジオパークは多様性を受け入れ活かす知恵が各地にあり、ネットワークを活用して共有することができる。その例としての島根の事業者の活動を共有し、それを元に、どのようなことが可能なのか、議論する。

ファシリテーター	兵庫県立大学地域資源マネジメント研究科講師 松原 典孝
基調提起	ファシリテーターによる基調提起
口頭発表	①ジオパークのユニバーサルデザインを考える会 丸橋 暁 「ジオパークにUDが必要なのは必然性があった」 ②霧島ジオパーク・ユニバーサルデザインフォーラム 西島 昭治 「五感で楽しむジオパーク」 ③(有)なわ旅館 勝谷 有史 代表取締役 「IAUD国際デザイン賞金賞を受賞した旅館づくり」 ④特定非営利活動法人プロジェクトゆうあい 田中 隆一 代表理事 「松江/山陰パリアフリーツアーセンターの取り組み」
会場との意見交換	ディスカッション方式：参加者の皆さんにはZoomのブレイクアウトルームで班に分かれてもらう。①班内で自己紹介をして班長を決める。②今回の事例について感想を述べる。班長はそれをメモする。～班長がどのような話がなされたのかチャットに書き込み、それを発表する。

分科会 2-4 10月5日(火) 9:30~12:00 企画・運営 隠岐ユネスコ世界ジオパーク推進協議会

【ネットワークの意義・活用(ジオパーク同士のネットワークづくり)】
ネットワークによる多様な連携

本分科会ではジオパーク間の国際ネットワークを活用して推進的な事業に取り組んでいる4地域の事例を取り上げる。そして、それらの活動が地域にどのように貢献をしているか、また、なぜジオパーク同士の関わりが大切なのかを参加者と一緒に考える。

ファシリテーター	隠岐ユネスコ世界ジオパーク推進協議会事務局 事務局員 長田 樹 隠岐ユネスコ世界ジオパーク推進協議会事務局 専門員 ヴォウオシエン・ヤゴダ 桜島・錦江湾ジオパーク推進協議会 国際推進員 柴 ひかり
課題提起	ファシリテーターによる課題提起
口頭発表	口頭発表及び質疑応答 ※発表者順不同 ①糸魚川ジオパーク協議会 ブラウン セオドア 事務局員、竹之内 耕 フォッサマグナミュージアム館長 「有意義な交流活動 糸魚川と香港の姉妹関係」 ②桜島・錦江湾ジオパーク推進協議会 柴 ひかり 国際推進員 「コロナ前・コロナ禍の国際ネットワーク活動について」 ③金沢大学 アイーダ ママードウア 准教授 「白山手取川ジオパークおよび白山ユネスコエコパークのエリアをフィールドとした金沢大学の取り組み」 ④アボイ岳ユネスコ世界ジオパーク推進協議会 新井田 清信 学術顧問 「世界ジオパークかんらん岩ネットワークの経過と意義」
質疑応答	
意見交換及びまとめ	

分科会 2-5 10月5日(火) 9:00~12:00 企画・運営 Mine秋吉台ジオパーク推進協議会

【地域振興(ツーリズム)】 ジオツーリズムと地域振興

ジオツーリズムは、特に地質や景観に焦点をあてた自然エリアを訪れ、ツアー参加者の資源の保全への志向性を高める事業である。それはジオサイト(見学場所)への旅行、ジオ多様性の保全、鑑賞と学習を通じた地球科学への理解を促進させる。しかし、ジオパークでは、ジオサイトを守ることで地域を発展させる仕組みがきちんと構築されているのか?この分科会では、資源保護と地域経済の成長を両立させ持続的な地域の経済的発展を促進する仕組みや課題について議論する。なお、参加者は事前に「UNESCO Geopark, General presentation -English Version- Guy Martini and Asier Hilario(日本語テロップ付き)」を視聴し、参加する。

ファシリテーター	株式会社ジオ・ラボ 栗原 憲一 代表取締役社長
参加対象者	ジオパーク運営団体事務局員
基調提起	株式会社ジオ・ラボ 栗原 憲一 代表取締役社長
理論の共有	東北公益文科大学 新名 阿津子 准教授 Mine秋吉台ジオパーク推進協議会 小原 北士 事務局員
目標の共有	株式会社ジオ・ラボ 栗原 憲一 代表取締役社長
口頭発表	①NPO法人かなべ自然学校 前田 敦司 代表 楽しそうから始まるガイドの手法 ②公益財団法人 宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団 藤本 泰文 研究員 伊豆沼の環境保全の取り組み
パネルディスカッション	各地の事例を紹介し、ジオパークにおけるジオツーリズムについて話し合う。



諸手船神事(松江市)



出雲神楽



ハクチョウ



出雲そば

講習会 **10月4日(月) 13:00~17:30 10月5日(火) 9:00~12:00** 企画・運営 萩ジオパーク推進協議会

オンラインインタープリテーション講座 有料

コロナ禍で観光業やガイド業が軒並み大打撃を受けている。しかしオンラインでツアーを実施しガイドするという新しい手法が生まれ、大きな可能性も見えてきた。

本講座では、体験(アクティビティ)を通してメッセージを伝える技術「インタープリテーション」に触れ、楽しく安全に、お客様が主役となる場作りを体験・実習する。お客様自らが楽しみながら地域の魅力に気づき、満足できるツアーを提供するインタープリターになってみませんか。

参加者の皆様には、実習中に体験プログラムを作り、実演していただくので、グループでの参加を推奨する。

①オリエンテーション
↓
②オンラインジオツアーに参加してみよう
↓
③講義「知識を伝える」から「感動が伝わる」へ
↓
④インタープリテーション実習

講師紹介

菊間 彰 (きくま あきら)

一般社団法人 をかしや代表理事。2000年より富士山麓、沖縄、名古屋、新潟など全国で自然案内人=インタープリターとして働くうちに「しゃべって伝える」ことの限界を知り、「体験を通して伝える」手法を確立。2008年に愛媛県今治市に移住、「をかしや」を起業し、自然体験の技術をベースとした各種研修を多数実施。コロナ禍において、対面式のガイド養成講座の実施が難しいところ、いち早くオンラインインタープリテーション講座を実施、Withコロナ、Afterコロナを見据えた活動を行っている。著書「もう一度会いたい」と思われる人になる～インタープリターが伝えるコミュニケーションと探究の極意～(2020)

仲上 美和 (なかがみ みわ)

環境教育事務所Linoworks代表。2003年から株式会社自然教育研究センターに所属し、環境教育プログラム企画実施、地域の自然や人文に関する調査、自然案内人などの人材育成等をおこなう。一方で、全国の自治体や関連団体からの依頼を受けて、インタープリター育成と、参加体験型の手法を活かした地域活性化、人材育成等の場づくりに多数関与。2013年より地元・関西に拠点を移し、兵庫県三木市にて環境教育事務所Linoworksを創設。自然体験型・参加型の環境教育とインタープリテーションを専門とするインタープリター。同時に、ひととひと、ひととせんのよりよい関係を紡ぐ場を創り見守るファシリテーター。

パネルディスカッション **10月5日(火) 13:00~14:30** 企画・運営 島根半島・宍道湖中海(国引き)ジオパーク推進協議会

今、なぜジオパーク?

9分科会のファシリテーター等が参加し、分科会報告と、これから10年のジオパーク活動について議論を深め、「今、なぜジオパーク?」に対する答えを導き出す。

ファシリテーター NPO法人桜島ミュージアム 福島 大輔 理事長(桜島・錦江湾ジオパーク)

パネリスト

- ① 兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科 川村 教一 教授
- ② 糸魚川ジオパーク協議会 小河原 孝彦 学芸員
- ③ 室戸ジオパーク推進協議会 中村 昭史 地理専門員
- ④ 和歌山大学教育学部 此松 昌彦 教授
- ⑤ 東北学院大学 目代 邦康 准教授
- ⑥ 兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科 松原 典孝 講師
- ⑦ ⑧ 隠岐ユネスコ世界ジオパーク推進協議会 長田 樹 事務局員
- ⑨ 株式会社 ジオ・ラボ 栗原 憲一 代表取締役社長

(1)自己紹介と口頭発表を中心とする分科会報告(1分科会5分間)

- ① 10/4保全・保護(山陰海岸Gp)
- ② 10/5保全・保護(保全WG)
- ③ 10/4担い手育成・学校教育(室戸Gp)
- ④ 10/5担い手育成・地域住民(南紀熊野Gp)
- ⑤ 10/4社会貢献・防災(四国西予Gp)
- ⑥ 10/5社会貢献・ユニバーサルデザイン(ユニバーサルデザインWG)
- ⑦ ⑧ 10/4,5ネットワークの意義・活用(隠岐Gp)
- ⑨ 10/5地域振興・ツーリズム(Mine秋吉台Gp)

(2)ファシリテーターとパネラー・会場参加者との意見交換
※分科会報告をふまえ、これから10年のジオパーク活動について議論を深める

(3)まとめ
※「今、なぜジオパーク?」に対する答えを導き出す。

展示

くびきメッセ会場で行う予定であったポスターセッション、ポスターセッションコアタイム、展示ブースのデータを右記のホームページに掲載。



ポスターセッションデータ、
ポスターセッションコアタイム発表動画



展示ブースデータ

ビッグハート出雲において島根県民への販売を行います。

<p>1 筑波山地域 福来陳皮</p> 	<p>2 東三河 絹姫サーモン燻製</p> 	<p>3 三島村・鬼界カルデラ 焼酎みしま村</p> 	<p>4 那須烏山 ジュース「黒烏・赤烏・柚烏・黄金烏」</p> 
<p>5 下北 海峡サーモンだし入り茶漬</p> 	<p>6 銚子 銚子電鉄のぬれせんべい</p> 	<p>7 佐渡 佐渡「お番茶」</p> 	<p>8 浅間山北麓 花豆甘納豆</p> 
<p>9 山陰海岸 紅ずわいがにせんべい</p> 	<p>10 南紀熊野 あゆチヨビ</p> 	<p>11 萩 夏みかんジュース「萩」</p> 	<p>12 おおいた豊後大野 大分本格むぎ焼酎「いのちき」</p> 
<p>13 土佐清水 宗田節のうす削り</p> 	<p>14 室戸 黒うどん</p> 	<p>15 十勝岳 美瑛産黒豆入りコーヒー20%</p> 	



大会ホームページに特産品情報を掲載



1 八百万マーケット
神事(かみわざ)おだし



2 八百万マーケット
赤貝めしの素



3 八百万マーケット
鯖塩辛



4 八百万マーケット
鯖の塩辛オリーブオイル漬け



5 八百万マーケット
めかぶサラダ



6 こうや電気窯
シーグラス陶器



7 鶴鷺げんきな会
鶴鷺の藻塩



8 大根島研究所
松江いちぢくビール



9 大根島研究所
松江えびすみかんビール



10 大根島研究所
松江安納芋ビール



11 大根島研究所
松江トマトエール



12 島根半島四十二浦巡り再発見研究会
島根半島の旅を案内するガイドブック



大会ホームページに特産品情報を掲載

日本ジオパークネットワーク正会員及び準会員地域の魅力を島根県民に伝えるブース展示をビッグハート出雲において行います。

北海道ブロック

アポイ岳 洞爺湖有珠山 白滝 三笠 とかち鹿追
十勝岳 上川中部

「北海道ジオパークの四季」写真展

テーマ 北海道の「四季」をテーマに、ジオ・エコ・ヒトなどについて紹介する

東北ブロック

磐梯山 男鹿半島・大湯 八峰白神 ゆざわ 三陸
栗駒山麓 下北 鳥海山・飛鳥 蔵王

いいんでねー!! 東北のジオパーク2021

テーマ ようこそ! 見たことのない東北のジオパークへ

関東ブロック

伊豆大島 下仁田 秩父 箱根 銚子
筑波山地域 浅間山北麓 那須烏山 茨城県北 古関東深海盆

関東のジオパークで地球を旅してみませんか?

テーマ 地球の「たから」を見つけに行きたくするネタがいっぱい! 訪れてぶらぶら歩いて体験したい食と自然と地形の秘密 知れば知るほどおもしろい地球と暮らしのストーリー

中部ブロック

糸魚川
南アルプス 志摩深谷くい山 白山手取川 佐渡 伊豆半島
立山黒部 苗場山麓 飛騨山脈 東三河 飛騨小坂

GeoTube(ジオチューブ)~日本の真ん中(ちゅうぶ)から地域を発信!~

テーマ 地域づくり×ジオパーク

九州ブロック

島原半島 阿蘇 霧島 おおいた姫島 おおいた豊後大野
桜島・錦江湾 三島村鬼界カルデラ 北九州 五島列島

九州火山風呂(フロント)

テーマ 九州ジオパークの火山の恵みを満喫

中四国近畿ブロック

山陰海岸 室戸 隠岐 四国西予 南紀熊野
Mine秋吉台 萩 土佐清水 三好 島根半島・宍道湖中海

ジオの恵み ~「食」で知るジオパーク~

テーマ 大地と密接に関係する「食」を通じて、中四国近畿ブロックの各ジオパークを紹介

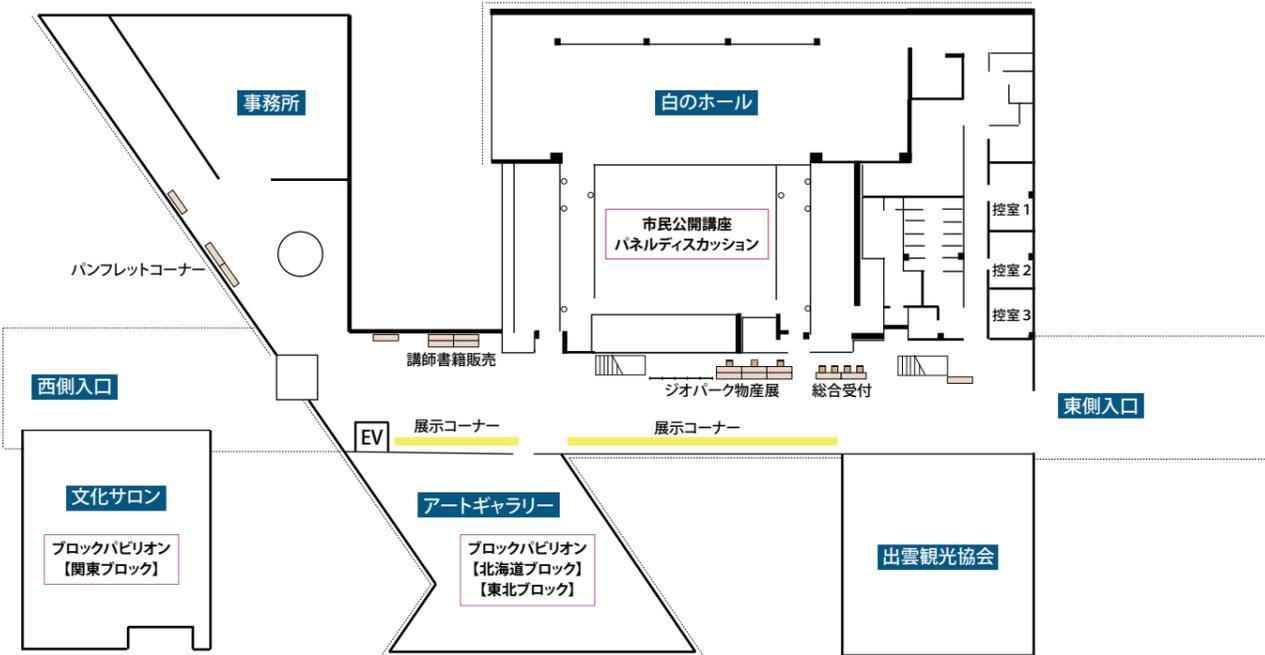


大会ホームページに各ブロックのパネル・動画データを掲載

ビッグハート出雲 1F

1階通路

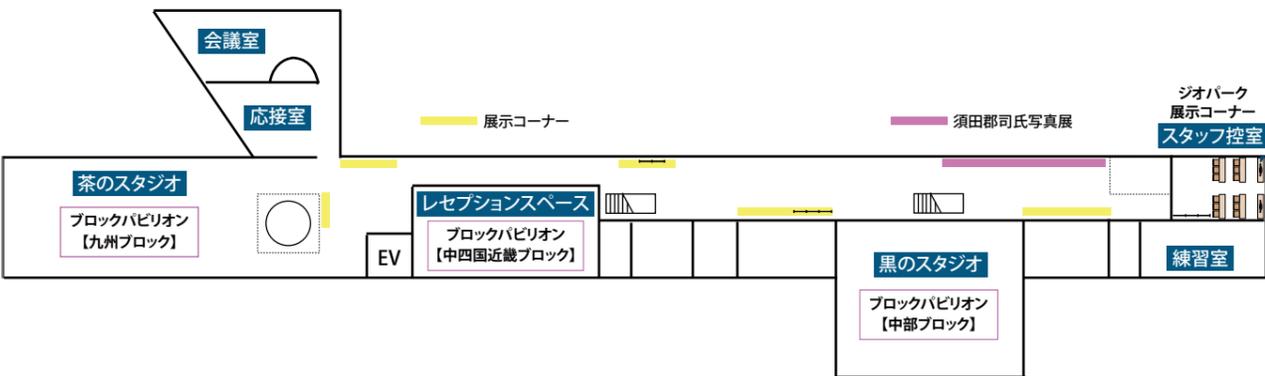
[受付/物産ブース/ジオパーク展示]



ビッグハート出雲 2F

2階通路

[ジオパーク展示]



ジオパークとは

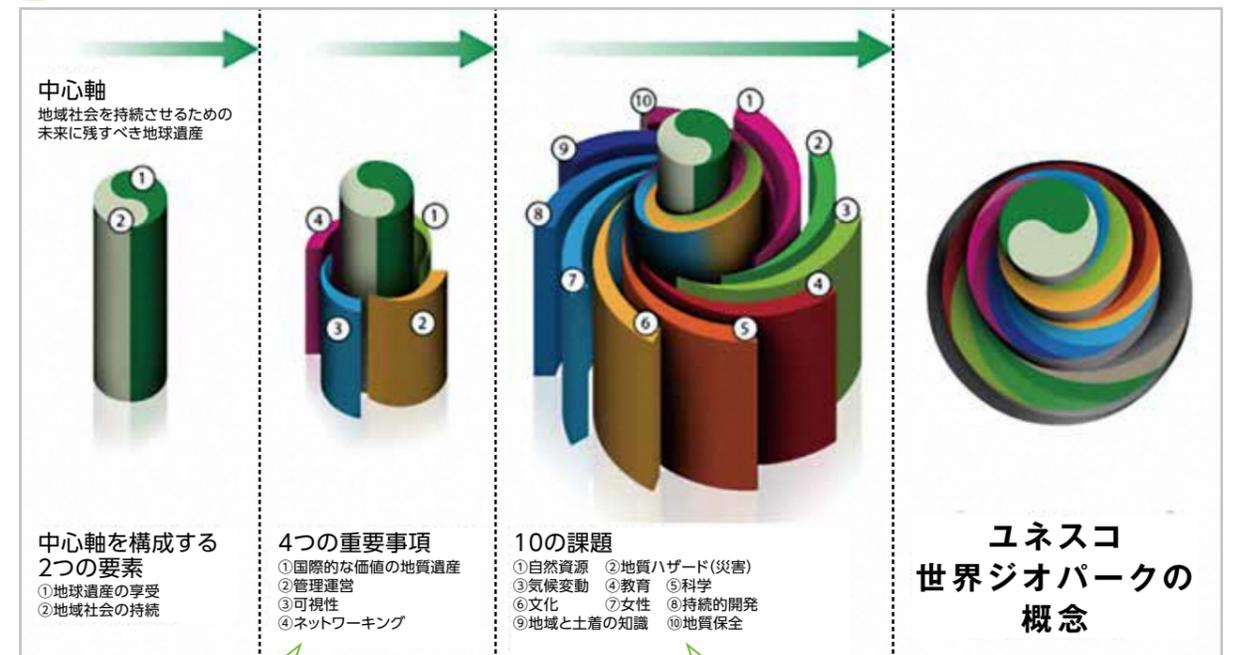
国際的に地質学的意義のあるサイトや景観が**保護、教育、持続可能な開発**で一体となった考え方により管理された、飛び地になっていない単一の地理的エリアです。

ユネスコ世界ジオパークは、地球資源を持続的に利用したり、気候変動の影響を緩和したり、自然災害の影響を軽減するといった、社会が直面している重要課題への意識と理解を高めるため、その**地域のあらゆる自然・文化遺産と関連した地質遺産**を利用しています。歴史と現代社会の中で、地域の地質遺産の重要性について意識を高めることにより、ユネスコ世界ジオパークは地域住民に自分たちの**地域に対する誇り**を与え、地域と地域住民の一体感を強めます。

地域の地質資源が保護されている一方で、**ジオツーリズム**などを通じて**新たな収入源が生まれる**ので、革新的な地元企業や新しい雇用、質の高い研修コースの機会が活発に作り出されます。

(ユネスコ世界ジオパークパンフレット(和文)から引用)

ユネスコ世界ジオパークの概念



(原図は杉浦愛さんが作成)

- **国際的価値の地質遺産 (Geological heritage of international value)**
ユネスコ世界ジオパークには、そのエリアは国際的に価値のある地質遺産が存在。
- **管理運営 (Management)**
ユネスコ世界ジオパークは、国の法律の下で認められた組織によって管理。その組織はエリア全体を包括し、すべての関連構成組織を含む。住民の社会的経済的ニーズに応え、遺産を保全し文化的独自性を保存するために、構成員で合意された管理計画が必要。
- **可視性 (Visibility)**
主にジオツーリズムを通じて地域の持続可能な開発を推進。訪問者だけでなく住民も、ユネスコ世界ジオパークの関連情報を見つけれられること。
- **ネットワーク (Networking)**
エリアの住民と協力だけでなく、世界ジオパークネットワーク (GGN) や地域ネットワーク (APGNなど) を通じて、他のユネスコ世界ジオパークと協力し、お互いに学びジオパークのブランドを向上。国境を超えて協力することで、さまざまなコミュニティ間の理解を深め、平和を構築することを支援。

1. 自然資源……………天然資源の持続的利用と環境保全
2. 地質ハザード(災害)……………ハザードの理解と災害軽減
3. 気候変動……………気候変動の記録と再生可能エネルギー
4. 教育……………地質と自然、文化、無形遺産と連携した教育の実施
5. 科学……………エリアでの科学研究実施と地球のプロセスに理解
6. 文化……………地域社会、経験、地球の営みの繋がりの探求と享受
7. 女性……………教育や共同組織体を通じた女性への機会提供
8. 持続的開発……………地域住民の持続可能な開発計画
9. 地域と土着の知識……………地域や土着の文化の保存と享受
10. 地質保全……………地球の遺産を大切に保護

第11回日本ジオパーク全国大会
島根半島・宍道湖中海大会
実行委員会事務局

[松江市役所地域振興課 ジオパーク推進室]
〒690-8540 島根県松江市末次町86番地
TEL: 0852-55-5399 FAX: 0852-55-5665
E-mail: kunibiki-geopark@city.matsue.lg.jp

[出雲市役所政策企画課 ジオパーク係]
〒693-0001 島根県出雲市今市町70番地
TEL: 0853-21-6612 FAX: 0853-21-6752
E-mail: seisaku@city.izumo.shimane.jp

f 島根半島・宍道湖中海ジオパーク

第11回 日本ジオパーク全国大会 島根半島・宍道湖中海大会

[協賛企業・団体]



山陰海岸ジオパーク



南紀熊野ジオパーク

